

# 2015年度入試概要分析

この夏、各大学の2015年度入試の概要が出揃った。2015年度入試は数学と理科が新課程に対応した初年度の入試となる。センター試験や各大学の出題科目も変更されることから、改めてこれらのポイントを確認するとともに、志願動向に影響を与えそうな入試変更や大学の動きについてお伝えする。

## ◆大学志願者数は大きく変化せず

来年の入試概要を見る前に、8月に文部科学省より公表された「平成26年度学校基本調査速報」から、大学志願者数の推移を確認しておこう。【図表1】は、2000年以降の新規高卒者数および大学志願者数・入学者数の推移である。2014年度は、新規高卒者数が前年から4万人(3.7%)減となった。これに伴って、現役の大学志願者数は前年から2万2千人(3.7%)減少した。既卒の大学志願者数は増加したものの、現卒をあわせた大学志願者数は、66万2千人と前年から1万8千人(2.6%)減少した。現役生の大学志願率(新規高卒者数に占める大学志願者の割合)は前年と変わらず54.9%で、2010年度の55.7%をピークにここ数年は頭打ちの状況が続いている。

さて、来春の新規高卒者数は2014年度から約1万7千人(1.6%)増加する見込みである。大学志願率に大きな変化がなければ、現役の大学志願者数は増加が見込まれる。一方、既卒の大学志願者数は減少していると推測され、現卒あわせた大学志願者数は、今春と大きく変わらず66万人前後になると河合塾では予測する。

## ◆数学と理科が新課程へ移行

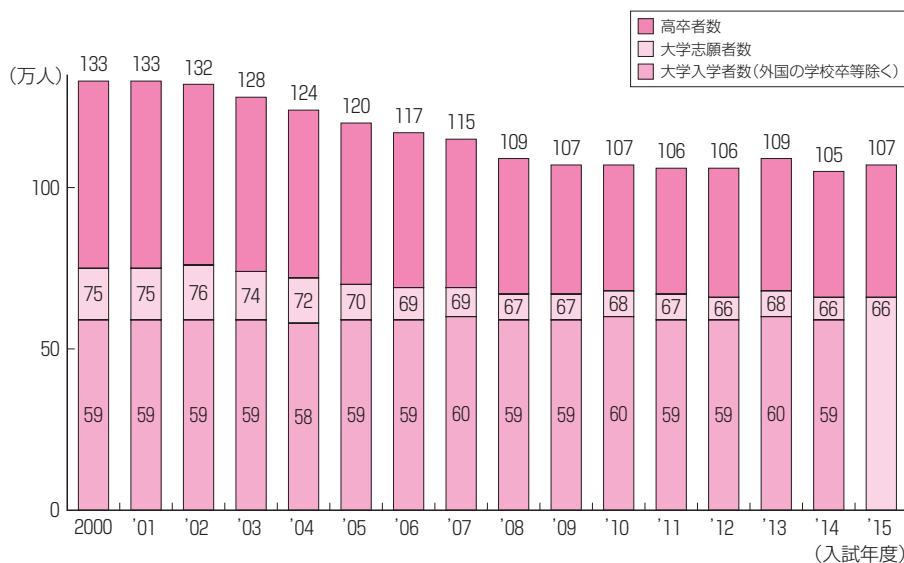
来春入試の最大のトピックは、数学と理科の新課程への移行であろう。

センター試験も数学と理科は新課程へ対応した出題となる。なかでも科目編成や実施方法が大きく変更されるのが理科である。物化生地が「基礎科目」と「基礎を付さない科目(以下、4単位科目)」としてそれぞれで出題され、計8科目で実施される。「基礎科目」は理科①、「4単位科目」は理科②として試験時間帯を分けて実施し、理科①は試験時間60分内で2科目の解答が必須である。こうした複雑な科目編成、実施方法となったうえ、受験生は出願時に理科①と理科②の受験パターン【図表2】を申請する必要がある。受験パ

ターンの決定には、各大学の科目設定の把握が必要であるが、国公立大と私立大、文系学部と理系学部でその設定状況が大きく異なる。各大学の設定状況は、後述の「国公立大学編」「私立大学編」にまとめたので参照されたい。

受験上の注意点も増えた。数学と理科は、新課程生が選択不可な旧課程科目も出題されるが、数学は同一の問題冊子で実施される。また、理科を含めて解答用紙の解答科目マーク欄には旧課程科目名も並んでおり、マークミスに注意が必要である。近年では、2012年度に地歴・公民の実施方法が変更された際、試験運営者および受験生の認識不足によるトラブ

【図表1】大学志願者数・入学者数の推移



入試年度	高卒者数	大学志願者数			大学入学者数
		全体	現役 (志願率)	既卒	
2000	1,328,940	745,199	599,950 (45.1%)	145,249	587,142
2001	1,327,109	750,324	615,475 (46.4%)	134,849	588,871
2002	1,315,079	756,333	622,346 (47.3%)	133,987	590,845
2003	1,281,656	742,934	606,116 (47.3%)	136,818	586,749
2004	1,235,482	722,219	585,763 (47.4%)	136,456	580,456
2005	1,203,251	699,732	578,295 (48.1%)	121,437	586,296
2006	1,172,087	690,615	586,314 (50.0%)	104,301	587,512
2007	1,148,108	689,673	595,040 (51.8%)	94,633	597,219
2008	1,089,188	670,371	582,723 (53.5%)	87,648	589,552
2009	1,065,412	668,590	584,908 (54.9%)	83,682	589,942
2010	1,071,422	680,644	596,570 (55.7%)	84,074	598,827
2011	1,064,074	674,696	589,203 (55.4%)	85,493	593,845
2012	1,056,387	664,334	581,372 (55.0%)	82,962	588,662
2013	1,091,614	679,177	599,642 (54.9%)	79,535	599,240
2014	1,051,342	661,669	577,467 (54.9%)	84,202	593,596

※文部科学省学校基本調査より ※グラフ中の2015年度の数河合塾推定  
 ※現役志願率:高卒者数に占める現役大学志願者の割合  
 ※大学入学者数は高校卒以外(外国の学校卒業等)を除いた値を掲載

【図表2】センター試験理科 出題科目と受験パターン

グループ	出題科目	試験時間(配点)	受験パターン
理科①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	2科目 60分 (100点)	A:理科①から2科目選択 B:理科②から1科目選択 C:理科①から2科目 および 理科②から1科目選択 D:理科②から2科目選択
理科②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	1科目 60分 (100点)	

※理科①は2科目選択必須、試験時間60分で2科目を自由に解答  
※上記とは別に日課程履修者用科目が出題される

ルが相次いだ。受験案内にも上記のことは注意点として触れられているが、これまで以上に受験生に注意喚起を促す必要がありそうだ。

### ◆外国語の外部試験活用が拡大

2015年度入試の新たな動きとして挙げられるのが、外国語の外部試験活用の拡大である。TOEFLやTOEIC、英検といった外部試験の成績を出願要件に指定するケースや、一般入試では英語試験の代替として活用するケースが広がっている。【図表3】はその一例をまとめたものである。

金沢大や山口大のケースは、一般入試の英語の成績の代替、得点加算として利用するもの。金沢大(人間社会-国際)の一般入試では、外部英語試験のスコアが指定以上であれば、センター試験の英語を満点とみなして利用する(センター試

験英語の受験は必要)。山口大が来春の新設を予定している国際総合科学部の一般入試では、2次試験の外国語(後期は小論文)の得点に加算する。

首都大東京や上智大のケースは出願要件として利用する。首都大東京では、これまで実施してきた東京未来塾特別推薦を廃止し、AO入試としてグローバル人材育成入試を導入する。2学部2系・4コースで実施され、外部試験で一定以上のスコアが出願要件として必須である。上智大では、日本英語検定協会と共同で開発した英語試験「TEAP」の受験スコア提出を出願要件とした選抜方法を、一般入試として新たに設ける。ただし、「TEAP」以外の外部試験の利用は認めておらず、他大学が複数の外部試験の活用を認めるなか、課題が残る選抜方法に映る。

外部試験の成績利用は、これまでも推薦入試やAO入試を中心に一部の大学で行われてきた。しかし、教育再生実行会議(第4次提言)で、大学入試において外部英語試験の活用が謳われ、一般入試での導入も目立つようになった。また、従来は外国語学部や国際系の学部の利用が主であったが、それに留まらず他の学部系統や全学的に導入する動きが目立つ。2016年度入試では、東京大と京都大がそれぞれ導入する推薦入試、特別入試において、一部の学部を除いて外部英語試験の一定以上の成績を出願要件としている。また、東京海洋大(海洋科学)は、2016年度入試より一般入試を含めた全ての選抜方法で、外部試験の一定以上のスコアを出願要件に加える変更を予定している。

【図表3】外部英語試験の活用例

大学(学部・学科)	入試方式	内容	対象外部英語試験
秋田大(国際資源)	一般選抜(前期)	外部試験指定スコア以上で、2次試験英語を免除し、満点と換算して合否判定する	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検
首都大東京(都市教養-人文社会系・経営学系、都市環境)	AO入試(グローバル人材育成入試)	出願資格として外部試験スコアを利用	TOEFL、IELTS、英検、GTEC
金沢大(人間社会-国際)	一般選抜	外部試験指定スコア以上で、センター英語を満点とみなす(センター英語の受験は必要)	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検
山口大(国際総合科学)	一般選抜	前期は2次英語で、後期は2次小論文で、それぞれ満点を上限に外部試験スコアにより3段階で得点を加算	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検、GTEC
長崎大(多文化社会)	一般選抜	第1段階選抜において、外部試験指定スコア以上でセンター英語を満点とみなす	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検、GTEC
国際基督教大	一般入試B方式	1次選考で、外部試験のスコアを利用	TOEFL、IELTS
上智大(国際教養学部除く)	TEAP利用型入試	出願資格として外部試験(Teap)スコアを利用	TEAP
法政大(理工-航空操縦学専修)	一般入試	出願資格として外部試験スコアを利用	TOEFL、TOEIC、英検
立命館アジア太平洋大	センター方式	外部試験指定スコア以上で、センター英語を満点とみなす	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検

※河合塾調べ

## 国公立大学編

### ◆入学定員-国立大177名減、公立大390名増

【図表4】は、国公立大の募集人員の変化を選抜方法別にまとめたものである。国立大の募集人員は前年から177名減少している。これは、埼玉大、東京学芸大などで改組に伴う入学定員の減員を予定しているためだ。一方、公立大は、一部大学の入学定員増と今春公立大学法人化した長岡造形大が加わることから390名増となる。なお、近年続いている医学科の

定員増であるが、来春もすでに琉球大が5名の定員増予定を公表している。

選抜方法別に見ると、前期日程で147名増、AO入試で167名増と増加数が多い。前述の長岡造形大の一般入試は、前期日程と中期日程で実施する。中期日程は実施大が少なく、多くの志願者を集めそうだ。

難関大や医学科を中心とした後期日程廃止の動きは落ち着きつつあるものの、来春も国立大の一部が廃止する。お茶の

【図表4】国公立大 選抜方法別募集人員の変化

		国立大			公立大			国公立大 計		
		2014年度	2015年度	前年差	2014年度	2015年度	前年差	2014年度	2015年度	前年差
一般選抜	前期日程	65,053	65,101	+48	14,885	14,984	+99	79,938	80,085	+147
	後期日程	15,932	15,792	-140	3,555	3,714	+159	19,487	19,506	+19
	中期日程	—	—	—	1,933	1,958	+25	1,933	1,958	+25
	別日程	—	—	—	315	300	-15	315	300	-15
	A O入試	2,758	2,807	+49	447	565	+118	3,205	3,372	+167
	推薦入試	11,948	11,865	-83	7,143	7,129	-14	19,091	18,994	-97
	その他	667	616	-51	315	333	+18	982	949	-33
	計	96,358	96,181	-177	28,593	28,983	+390	124,951	125,164	+213

※河合塾調べ

水女子大（文教育－言語文化、生活科学－人間生活）、鳥取大（農－共同獣医）、広島大（薬）などが後期日程を廃止する。また、信州大（医－医）は、後期日程の募集人員を45名から15名に減員し、減員分を前期日程に加える。医学科の後期日程廃止・縮小が相次ぐなか、募集人員が多かった同大の人氣は高く、志願者数が1千人超となることも珍しくなかった。募集人員の縮小により、周辺大を含めた志願動向に影響が及びそうだ。

一方、首都大東京（健康福祉－理学療法、作業療法）、広島市立大（芸術－デザイン工芸）などが新たに後期日程を実施する。また、前期日程から後期日程に募集人員を大きくシフトする大学もある。なかでも兵庫県立大（工）が96名（前期：216名→120名、後期：44名→140名）、鹿児島大（水産）が22名（前期：92名→70名、後期：38名→60名）とその数が多い。志願動向の変化とそれに伴う難易変化が予想されるので注意したい。

近年、廃止や縮小が目立ったA O入試だが、来春は東京工業大（第7類）、九州大（法）、長崎大（多文化社会）などが新たに実施し、募集枠が拡大する。東京工業大（第7類）では、「生物に特に秀でた素質が認められる者」を求めており、生物に関する設問をベースとした筆記試験を課す。九州大（法）は、2009年度にA O入試を一旦廃止したが、「法律的専門性を持つグローバル人材」を目指す受験生獲得を目的に再度A O入試を実施する。1次試験では外部英語試験の成績も評価の対象とし、2次試験でも英語学力試験と英語を含めた面接試験を行うなど、英語能力を重視した選抜となっている。なお、入学者は英語を強化した少人数教育を受ける。

### ◆センター試験理科 文系学部と理系学部で対応分かれる

数学と理科の新課程への移行に伴う科目の設定を確認しておこう。

科目の編成が複雑となったセンター試験の理科は、概ね文系学部と理系学部で科目の設定が分かれた。文系学部は理科①で受験可（理科②でも代替可）、理系学部は理科②を2科目（理科①は受験不可）という設定が一般的である。そのため、文系学部志望者は【図表2】のパターンAまたはC、理系学部志望者はパターンDでの受験が一般的となるだろう。

ただし、イレギュラーな科目設定を行っている大学や、対応が分かれている学部系統があるので触れておきたい。

琉球大（農）では、理科①と理科②1科目を必須としている。志望者はパターンCでの受験が求められており、理系学

部志望者の主流パターンであるパターンDでは受験ができない。しかも、同一名称を含む科目の選択は不可であり、実質3科目の準備が必要である。受験生泣かせの科目設定と言える。

医療系の看護や作業療法学、教育学部の養護教諭養成課程では、設定方法が大学により分かっている。

一例として【図表5】に看護の設定状況をまとめた。1・2段目は文系学部と同様に理科①で受験が可能な大学である。ただし、2段目の大学は理科①を受験せず理科②のみを受験した場合、2科目の受験が求められる。難関大を中心とした文系学部でも同様のケースが見られ、看護に限らず受験生に注意させたい点である。また、1段目の大学では、受験生がパターンCで受験した場合、理科①2科目と理科②1科目のいずれの成績を採用するかは対応が分かっている。高得点を採用する大学もあれば、理科①を優先する大学もあり、該当者にはきちんと把握させたい。3段目以降は理科①のみでの受験が認められないケースで、4・5段目は理系学部と同様に理科②2科目での受験が基本となる。4段目は理科①および理科②1科目での受験が認められているが、理科①と理科②で同一名称科目の受験は不可とする大学も多く、パターンCでの受験を考える場合は志望校の状況を十分確認させたい。

2次試験で理科を課す大学の状況は、埼玉大（教育）、東京学芸大（教育）の一部で「基礎科目」の出題が見られるものの、その他の大学では「基礎科目」＋「4単位科目」をあわせた出題となっている。

### ◆2次試験数学 選択項目の扱いは対応分かれる

数学は、「数学C」が廃止されたのをはじめ、各科目の学習項目も変更が行われている。しかし、各大学の出題科目は変更なく、例えば「数学I、数学II、数学A、数学B」を出題していた場合は、そのまま同じ4科目を出題とするケースが多い。

学習指導要領上では選択となっている「数学A」「数学B」の各項目の扱いについては、本冊子の入試科目一覧で一見して分かるようにしてあるので、ご参照いただきたい。「数学A」については、学習する各項目が、高校数学において基礎となる考えを含んでおり、入試においてはいずれも欠かせない分野であることから、「全てを出題範囲とする」もしくは選抜要項上では特に限定していない大学が大勢を占めている。

「数学B」は数学Aと異なり、3項目のうち「数列」「ベクトル」を出題範囲に指定する大学でほぼ揃っている。

### ◆個々の大学の主な入試変更点

次に個々の大学の状況について、旧帝大を中心とした難関大の入試変更について確認した後、地区別に主な変更点を見ていこう。一般入試の変更点は下記を含め、44ページからの

【図表5】国公立大看護系 センター試験理科の指定パターン

	北海道・東北	関東・甲信越	北陸・東海	近畿	中国・四国 九州
基礎 or 4単位1科目	札幌医科★、名寄市立、宮城、秋田★	筑波★、首都大東京◆、(神奈川県立保健福祉)、新潟県立看護、山梨、山梨県立、長野県看護	富山、石川県立看護、敦賀市立看護、(福井県立)、岐阜★、岐阜県立看護、静岡県立、浜松医科、愛知県立、名古屋市立★、三重、三重県立看護	滋賀医科、滋賀県立、京都府立医科、大阪府立、兵庫県立、奈良県立医科、和歌山県立医科	島根、島根県立、岡山県立、新見公立、県立広島、山口県立、香川★、香川県立保健医療、愛媛、愛媛医療技術、高知、高知県立、福岡県立、長崎、長崎県立、宮崎県立看護
基礎 or 4単位2科目	旭川医科、札幌市立、青森県立保健	千葉県立保健医療、東京医科歯科	福井		鳥取、広島★、徳島
4単位1科目		群馬県立県民健康科学、埼玉県立、横浜市立●		大阪市立、神戸★、神戸市看護	大分、宮崎
基礎+ 4単位1科目 or 4単位2科目	札幌医科☆、岩手県立、秋田☆、山形、山形県立保健医療、福島県立医科	茨城県立医療、首都大東京◇、新潟	名古屋市立☆		香川☆、名桜
4単位2科目	北海道、弘前、東北	筑波☆、群馬、千葉、横浜市立○、信州	金沢、岐阜☆、名古屋	京都、大阪、神戸☆	岡山、広島☆、山口、九州、佐賀、熊本、大分県立看護科学、鹿児島、沖縄県立看護、琉球

※指定パターンは前期日程のもの  
 ※★は地公を2科目選択した場合、☆は地公を1科目選択した場合 ※◆は地公を1科目選択した場合、◇は地公を選択しなかった場合  
 ※●は数学を2科目選択した場合、○は数学を1科目選択した場合 ※( )付の大学：理科は選択教科

「2015年度 入試変更点一覧」に掲載しているので、あわせてご活用いただきたい。

① 難関大の入試変更

京都大が複数の入試変更を行う。文系学部では、地歴・公民の扱いを変更する。教育(理系)、経済(理系)、総合人間(理系)を除いて、センター試験の地歴・公民は2科目必須とし、公民の「倫理、政治・経済」の選択を認める。センター試験を2科目必須とするのに伴い、文、法、総合人間(文系)の2次試験の地歴で、センター試験で利用する科目以外の受験が必要だったルールを撤廃する。この変更により、センター試験の科目増となる学部があるものの、学内の科目設定が統一され、他の難関大文系学部とも同様の科目設定となった。志望者はセンター試験で解答する科目を悩む必要がなくなり、歓迎すべき変更内容といえる。医学科では、理科をセンター試験と2次試験あわせて3科目(物化生)必須としていたが、来春より2科目の準備で受験ができるようになる。同様の変更は北海道大(医-医)でも行われ、理科3科目必須の医学科は九州大のみとなる。看護学専攻では、2次試験の理科を生物必須から、同学科内の他専攻と同様に、物理、化学との選択に改める。

九州大は、文学部の2次試験で新たに地歴を加えて4教科を課す。他学部でも地歴は課しておらず、その出題内容が注目される。東京外国語大では、2次試験で世界史を必須としていたが、来春より日本史との選択になる。大学のホームページにはサンプル問題を公表しており、志望者には参考になるだろう。

② 北海道・東北地区

- 小樽商科大(前)：東京会場を廃止
- 北海道大(理-化学)：AO入試を廃止
- 室蘭工業大(工-機械航空創造系-前)：2次試験 理科減
- 岩手県立大(ソフトウェア情報-前)：センター試験を課さない方式を廃止
- 宮城大(食産業-前)：2次試験 教科数減(外のみ)
- 宮城教育大(教育-中等-理科-前)：2次試験 国理2→数国

山形大(工-前)：札幌会場を廃止  
 (医-医-前)：地域枠を新たに設置

③ 関東・甲信越地区

- 茨城大(理-後)：センター試験7科目化、2次試験廃止  
 (工-前)：2次試験を課さない方式を追加
- 筑波大(人文・文化-前・後、生命環境-生物・地球-前・後、芸術-前・後)：2段階選抜の廃止  
 (人文・文化-前・後、社会・国際-前)：センター試験科目数増  
 (医-医-前)：地域枠の廃止(推薦入試地域枠の募集人員増)
- 群馬大(理工-前)：2次試験 英語増
- 千葉大(法政経-前)：2段階選抜の実施  
 (園芸-食料資源経済を除く-前)：2次試験 英語増
- お茶の水女子大(理-物理-前)：2次試験 英語増
- 東京農工大(工-生命工、応用分子化学、有機材料化学、化学システム工-後)：2次試験 数学減
- 信州大(経済-前・後)：センター試験7科目化  
 (医-医-前・後)：2次試験 化学増、前期は2段階選抜の実施

④ 東海・北陸地区

- 石川県立大(生物資源環境-前)：センター試験7科目化、2次試験 英→理
- 敦賀市立看護大：大学独自日程→前期・後期日程
- 福井県立大(看護福祉-看護-前・後)：地域枠を新設
- 岐阜大(応用生物科学-共同獣医-前)：2次試験 数理→英理
- 静岡大(人文社会科学-社会を除く-前、情報-前・後)：センター試験7科目化  
 (人文社会科学-経済-前)：2次試験 国語増  
 (教育-前)：2次試験 1→2教科(実技を課す専攻・専修を除く)
- 名古屋市立大(薬-中)：2段階選抜を実施

## ⑤ 近畿地区

- 京都府立大 (生命環境-森林科学-前): 2次試験 数学増  
大阪大 (工-前): センター試験理科 物化生地から2 (組合せ制限の廃止)  
大阪府立大 (地域保健-栄養療法学-前): 2次試験 英小面→英数理  
神戸市外国語大 (後): センター試験 3→4科目  
奈良女子大 (理-化学-後): 2次試験 英語増  
(理-生物科学-環境科学-後): 数小面から1→英数  
(理-数物科学-前・後、生活環境-心身健康-前・後): 型別募集の廃止  
(生活環境-生活情報通信科学-前): 2次試験 英数理2→英+数国理から1  
(生活環境-情報環境-後): コース別募集の廃止  
和歌山大 (教育-総合教育): 後期日程廃止

## ⑥ 中国・四国地区

- 島根大 (生物資源科学-農林生産-前・後): センター試験理科 2→1科目  
島根県立大 (総合政策-前): センター試験3教科型と5教科型(新規)に分けて募集  
岡山県立大 (法-夜間主): 一般入試(前期・後期日程)を実施  
(理-前、農-前): 2次試験 英語増  
(環境理工-環境数理-前、医-看護学-前): 2次試験 理科増  
山口県立大 (人文-後): センター試験 数学増(3→4教科)  
(医-検査技術科学-前): 2次試験 英→理  
香川県立保健医療大 (保健医療-前・後): センター試験 英語リスニングの成績を利用へ

## ⑦ 九州地区

- 九州歯科大 (歯-歯-前): 2次試験 理に代えて総合問題  
(歯-口腔保健-前): 2次試験 総合問題増、2段階選抜を実施  
佐賀大 (医-看護-前・後): 2段階選抜を廃止  
長崎県立大 (国際情報-情報メディア-前・後): 2次試験 総合問題→英+数国から1  
熊本大 (理-前、工-物質生命化学・社会環境工-前): 2次試験 英語増  
宮崎大 (工-前): 2次試験 数理から1→数理  
鹿児島大 (水産): 水産教員養成課程の廃止、水産学科は領域別募集へ  
(農、水産): 国際食料資源学特別コースを設置  
(医-医-前・後): 2段階選抜の実施、前期2次試験で理科1→2科目

## ◆学部・学科の新設・改組

次に新增設や改組・再編の動きについてまとめておく。

### ① 学部の新設・改組

3大学が学部の新設を予定している。山口大は、国際総合

科学部を新設する(入学定員は100名)。多様な国や分野の人たちを結びつけ、新しい知識や技術を生み出すことのできるグローバル・サイエンス・コーディネーターの育成をめざす。新学部の設置に伴い、教育学部と経済学部が学科(課程)の再編を行うとともに、入学定員をそれぞれ60名減、40名減とする。

高知大は、地域課題を解決する担い手の育成をめざす地域協働学部を新設する(入学定員60名)。あわせて教育学部で課程再編と40名の定員減、人文学部社会経済学科で20名の定員減を実施する。

高知工科大は、マネジメント学部(入学定員100名)を募集停止し、新たに経済・マネジメント学群(入学定員160名)を設置する。経済・マネジメント学群の2~4年次は、募集停止となる公立高知短大のキャンパス跡地(高知市内)で学ぶ。なお、短大の募集停止に伴い、高知県立大(文化)の入学定員が80名から150名に増員する。県内の国公立3大学で学部新設・改組・定員増の動きがあり、志願動向の変化が注目される。

### ② 学科の新設・改組

近年、教育学部の総合科学課程の縮小や、教員養成課程への募集人員のシフトが相次いでいるが、来春も前述の山口大、高知大のほか、埼玉大、東京学芸大、滋賀大、香川大などで課程の再編を行う。

埼玉大は、学校教育教員養成課程内のコースを再編する。従来の教科・専修ごとの区分を、小学校コースと中学校コースに区分し、学部全体の入学定員を50名減員する。また、同大では経済学部も3学科を経済学科の1学科に改組する。さらに夜間主の定員を35名減員することから、大学全体の入学定員が85名減となる。

東京学芸大は、5つの総合科学課程を教育支援課程1課程に集約する。大学全体の入学定員を55名減とするが、教員養成課程は初等教育を55名増、中等教育を40名増とする。また、初等教育教員養成課程内に環境教育選修を設置する。

滋賀大、山口大、高知大は、それぞれ学校教育教員養成課程以外の課程を廃止し、教員養成機能を強化する。

滋賀大は、環境教育課程を廃止する。これに伴い、教員養成課程の入学定員を20名増とし、初等教育コースに3専攻を新設する。

教員養成課程以外の4課程を廃止する山口大は、教員養成課程の入学定員を50名増の180名とする。教員養成課程には、情報教育コースを新設するとともに、小学校教育コースの充実をはかり、4選修を設置しコース定員を40名増とする。また、同大では経済学部も従来の5学科1課程を3学科体制に再編する。

高知大は、生涯教育課程を廃止し、教員養成課程には保育士養成を含む幼児教育コースを新設する。

香川大は、人間発達環境課程の入学定員を70名から40名に減員し、減員分をそのまま学校教育教員養成課程の定員にシフトする。教員養成課程はコースを再編し、コース別の募集に改める。

このほか、信州大(理、農)、和歌山大(システム工)、鳥取大(工)などで学科の改組を行う。和歌山大(システム工)では5学科を10の教育・研究領域(メジャー)からなる1つ

のシステム工学科に統合する。入学後は、2つのメジャーを選択し専門を学ぶ。鳥取大（工）では、8学科を4系学科に

集約する。

# 私立大学編

## ◆新課程理科の入試科目設定状況

はじめに科目構成が大きく変更された理科について、各大学の入試科目の設定状況を見てみる。

【図表6】は一般方式で必須、選択を問わず理科を課す大学の状況を学部系統別にまとめたものである。文系学部では基礎科目の選択が可能な方式が約6割を占めている。残りの4割の大学では4単位科目を課しているが、併設する理系学部に課している理科を、文系学部でも選択可としているケースがほとんどで、実質は地歴公民や数学等の他教科との選択

となっており、必ずしも理科を必要としない。理科の4単位科目が必須の大学は、早稲田大（教育）、関西学院大（教育）の理科選択型方式などごく限られた入試方式のみである。

一方、理系の理・工・農・医・歯・薬学系では9割以上が4単位科目を課している。しかし、理系の中でも看護や医療技術系は他の系統とは異なり、4単位科目を課す割合がいずれも約35%と低く、基礎科目で受験可能な大学が大勢を占めている。また、これらの分野は旧課程入試においても理科Ⅱを課す大学は少なかったことから、4単位科目を課す大学においても、全範囲からの出題とせず旧理科Ⅰの出題範囲に留めるところも多い。すでに入試ガイド等で出題範囲が明記されているところもあるので、個別に状況を確認する必要があるだろう。なお、基礎科目で受験できる大学の中には、センター試験と同様に基礎2科目が必要となる大学があるので注意したい。聖路加国際大（看護）や創価大（看護）等が該当する。

次にセンター方式の理科の科目設定に目を向けてみる。【図表7】は理科を課す大学について、「理科必須の大学」と「他教科との選択の大学」に分け、さらに理科の設定について、「理科②のみ」あるいは「理科①or②を選択可」に分けて学部系統別にまとめたものである。文系学部は9割以上が基礎科目の選択が可能だ。なお、文系学部であっても理科①で受験できない大学があるので注意したい。明治大（商）前期6科目は理科②1科目が必須である。また、青山学院大（法-法）、東京理科大（経営-経営）A方式、明治大（文、商）は理科は必須ではないが理科①は選択できない。

【図表6】一般方式 理科の4単位／基礎科目の割合

系統	基礎科目	理基／4単位選択	4単位科目
文・人文	31.8%	22.2%	46.1%
社会・国際	33.0%	25.5%	41.5%
法・政治	41.7%	16.7%	41.7%
経済・経営・商	33.8%	23.9%	42.3%
理	2.3%	4.6%	93.2%
工	1.6%	2.8%	95.6%
農	3.5%	1.4%	95.0%
医	0.0%	0.0%	100.0%
歯	4.8%	4.8%	90.5%
薬	0.9%	6.3%	92.8%
看護	42.1%	23.0%	34.8%
医療技術	38.0%	27.4%	34.7%
保健・福祉	53.3%	30.0%	16.7%
生活科学	46.9%	17.5%	35.6%
芸術・スポーツ科学	30.0%	26.3%	43.8%
総合・環境・情報・人間	21.9%	4.4%	73.7%

※1期入試の募集区分数で集計

【図表7】センター方式 理科の必須／選択 理科②or①の割合

系統	理科を必須で課す			理科を他教科との選択で課す		
	理科②のみ	理科①or②	合計	理科②のみ	理科①or②	合計
文・人文	0.2%	4.5%	4.7%	3.5%	91.8%	95.3%
社会・国際	0.0%	5.0%	5.0%	0.5%	94.6%	95.0%
法・政治	0.0%	7.8%	7.8%	1.5%	90.8%	92.2%
経済・経営・商	0.2%	5.4%	5.6%	2.1%	92.3%	94.4%
理	56.5%	16.7%	73.2%	9.2%	17.6%	26.8%
工	36.6%	11.4%	48.0%	20.8%	31.3%	52.0%
農	45.0%	19.4%	64.3%	16.3%	19.4%	35.7%
医	96.2%	0.0%	96.2%	3.8%	0.0%	3.8%
歯	31.6%	47.4%	78.9%	5.3%	15.8%	21.1%
薬	64.4%	26.0%	90.4%	5.8%	3.8%	9.6%
看護	6.8%	19.3%	26.1%	5.6%	68.3%	73.9%
医療技術	0.7%	16.9%	17.6%	6.4%	75.9%	82.4%
保健・福祉	2.9%	14.3%	17.1%	0.0%	82.9%	82.9%
生活科学	3.2%	21.2%	24.4%	2.4%	73.2%	75.6%
芸術・スポーツ科学	0.0%	2.5%	2.5%	0.7%	96.8%	97.5%
総合・環境・情報・人間	3.6%	7.2%	10.9%	4.1%	85.1%	89.1%

※1期入試の募集区分数で集計

理系学部は系統によって状況が異なる。医学科は理科①の選択ができる大学はなく、理科②での準備が必要である。理科を必須とする大学が多い薬学部も「理科②のみ」が大勢を占めている。また、理・工・農学系は国公立大と異なり理科①の選択が認められている大学が比較的難易度の低い大学を中心に一定数あるものの、受験可能な大学は限定されてくることから、理科②での受験が基本パターンと言えそうだ。一方、歯学部は対応が大きく分かれているが、理科①で受験可能な大学がやや多くなっている。一般方式でも基礎科目で受験可能な大学が多かった看護、医療技術系は、理科①で受験可能な大学が大勢を占めた。ただし、**東海大**（健康科学－看護）前期、**兵庫医療大**（看護－看護）前期、**福岡大**（医－看護）Ⅰ期などのように理科②を必須で課す大学もあり、これらの系統の志望者には科目設定状況を注意させたい。

### ◆主要大学の入試変更・キャンパス移転

次に全国から受験生の集まる主要大学の入試変更・キャンパス移転について見ていく。**慶應義塾大**が入試日程を変更し、昨年より数日早く入試を行う。経済（2/13）・商（2/14）で4日、総合政策（2/17）・理工（2/12）・医（2/19）・薬（2/10）・看護医療（2/11）・環境情報（2/18）は2日早くなる。慶應義塾大の最大の併願先である早稲田大の入試日程は昨年と変更がなく、入試日の間隔が空くため受験生は余裕をもって受験できるようになる。また、国公立大の前期日程とも入試日の間隔が広がり、併願がしやすくなるため、志望者増につながるだろう。医学部では2015年度入試から奨学金制度を導入し、一般入試の成績上位10名に年間200万円を1～4年次の4年間給付する。

**上智大**では前述の「TEAP」利用型入試を導入する。「TEAP」は年3回全国7会場で実施される英語能力判定試験で、「TEAP」利用型入試ではTEAPのスコアが学科ごとに設定された基準点以上でないと出願できない。選抜方法は英語を課さず、国語が必須で地歴公民・数学から1科目を課している（選択科目は学科により異なる）。このほか上智大では、総合人間科学部社会福祉学科でB方式（【小・面】）、理工学部のA方式（【英、数】（物・化・生→2））を廃止する。

関西地区では**龍谷大**が国際文化学部を改組し、国際学部を設置するとともに、瀬田キャンパス（滋賀県大津市）から深草キャンパス（京都府京都市）へ移転する。瀬田キャンパスには農学部の開設を予定している。この学部は植物生命科学、資源生物科学、食品栄養、食料農業システムの4学科を予定し、農業と食に関する学科構成となっている。関西地区では私立大の農学部は少なく、人気を集めそうである。**立命館大**では大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市）が新設される。このキャンパスには政策科学部と経営学部が移転し、2016年度には総合心理学部の設置が構想されている。

### ◆学部・学科の新設は看護学科の設置が来年も続く

来年も4月開設に向けて多くの大学・学部・学科の設置が予定されている。大学設置は**幸福の科学大**、**湘南医療大**、**長野保健医療大**、**鳥取看護大**の4大学が予定されている。うち3大学が人気の医療系の大学である。湘南医療大は保健医療学部看護学科、リハビリテーション学科（理学療法学、作業療法学専攻）の2学科2専攻、長野保健医療大は保健科学部リハビリテーション学科（理学療法学、作業療法学専攻）の1学科2専攻、鳥取看護大は看護学部看護学科の1学科を設置する。

今年の4月には、16大学で看護学科が開設されたが、来年も新設大学を含め、15の大学で看護学科の設置が予定されている【図表8】。関西地区での新設が目立ち、**京都学園大**（80名）、**同志社女子大**（80名）、**大阪青山大**（80名）、**四條畷学園大**（80名）、**神戸女子大**（80名）、**武庫川女子大**（80名）の6大学が予定している。15大学全ての学科が認可されれば、看護分野は合計1,235名もの定員増となる。

主要な大学の新設・改組に目を向けてみると、**青山学院大**が地球社会共生学部を相模原キャンパスに設置する。この学部は東南アジアへの海外留学プログラムを必須とするなど、国際社会で活躍できる人材育成を目標とした学部である。**立命館大**は薬学部に4年制の創薬科学科を設置予定。この学科は卒業をしても薬剤師国家試験の受験資格を得ることはできない。**関西学院大**では理工学部に先進エネルギーナノ工、環境・応用化学、生命医化学の3学科を新設する。それぞれ地球規模で問題となっているエネルギーや環境問題の研究や、近年話題の生命科学の研究を行う。人気の理系学部での学科設置は、多くの受験生を集めそうである。

【図表8】2015年4月設置予定看護学科

都道府県	大学	学部	学科	定員	備考
東京	東京純心	看護	看護	60	※東京純心女子大から名称変更
神奈川	神奈川工科	看護	看護	80	
	湘南医療	保健医療	看護	80	
	松蔭	看護	看護	100	
石川	金城	看護	看護	80	
岐阜	岐阜聖徳学園	看護	看護	80	
	日本医療環境	看護	看護	95	※人間環境大から名称変更
愛知	日本福祉	看護	看護	100	
	京都学園	健康医療	看護	80	
京都	同志社女子	看護	看護	80	
	大阪青山	健康科学	看護	80	
大阪	四條畷学園	看護	看護	80	
	神戸女子	看護	看護	80	
兵庫	武庫川女子	看護	看護	80	
	鳥取看護	看護	看護	80	

## ◆個々の大学の主な入試変更点

ここでは各地区の主要大学の入試変更等をまとめた。科目変更の詳細についてはp44「2015年度 入試変更点一覧」を参照されたい。

### ① 北海道地区

旭川大 (経済-経営経済)：1科目選択方式廃止  
札幌大 (地域共創-全専攻)：センタ方式 A・B・C日程  
→A・B・C・D日程  
札幌保健医療大 (看護-看護)：センタ方式 新規実施  
北星学園大 (全学部)：センタⅡ期 新規実施  
北海道薬科大 (薬-薬)：キャンパス移転 (小樽市→札幌市)

### ② 東北地区

東北女子大 (家政-健康栄養)：一般方式廃止  
東北学院大 (文(夜間主)-英文)：募集停止  
東北芸術工科大 (全学部)：専願型 新規実施  
奥羽大 (全学部)：三期廃止

### ③ 関東・甲信越(東京除く)地区

流通経済大 (全学部)：センタ3科目型Ⅰ・Ⅱ期→Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期  
センタ高得点2科目型 新規実施  
2科目型 新規実施  
城西大 (現代政策、経済、経営)：ベスト2 1回→2回、  
セレクト2廃止  
駿河台大 (全学部)：S方式 新規実施  
秀明大 (学校教師-全専修コース)：1～3期→1～4期  
聖徳大 (看護-看護)  
：ABC日程→AC日程、全学統一入試  
センタ方式 AC日程、全学統一入試 新規実施

### ④ 東京地区

青山学院大：全学部日程 本学のみ→本学・名古屋・福岡  
大妻女子大 (文、家政)：キャンパス移転 (1年次 狭山台  
→1～4年次 千代田)  
慶應義塾大 (商)：A方式560名→480名、B方式140名→120名  
国際基督教大 (教養-アーツ・サイエンス)：B方式 新規  
実施  
成城大 (全学部)：S方式 新規実施  
専修大 (経営-経営)：センタ前期2科目型 新規実施  
大東文化大 (法-法律)：全学部統一前期→前・後期  
拓殖大 (政経、商)：キャンパス移転 (1・2年次 八王子  
→1～4年次 文京)  
中央大 (商(フレックス)-プラス1)：センタ方式廃止  
明治大 (文)：センタ後期廃止  
(経営)：学科別募集→学部一括募集  
センタ前期3科目型 新規実施

### ⑤ 東海・北陸地区

金沢学院大 (全学部)：A(2教科)、B(1教科)→前・後  
期(3教科)  
岐阜医療科学大 (保健科学)：センタープラス 新規実施

常葉大 (健康プロデュース-健康栄養)：一般・センタ2教  
科型廃止  
愛知学院大 (全学部)：センタⅠ期4科目型 新規実施  
南山大 (理工)：キャンパス移転 (瀬戸市→名古屋市)  
鈴鹿医療科学大 (医用工、薬、保健衛生)：センタ中期 新  
規実施  
(看護-看護)：センタ前・中・後期 新規実施

### ⑥ 近畿地区

京都産業大 (文化-国際文化)：英語1科目型 新規実施  
同志社大 (理工-エネルギー機械工)：センタ6科目方式  
新規実施  
龍谷大 (全学部(理工、農を除く))：C日程高得点重視 新  
規実施  
大阪医科大 (医-医)：研究医枠入試 新規実施  
大阪歯科大 (歯-歯)：センタ前・後期 新規実施  
関西大 (文-総合人文)：全学部日程3教科型(同一配点方  
式) 新規実施  
(社会安全-安全マネジメント)  
：全学部日程2教科型英国方式 新規実施  
センタ中期(数学)→センタ中期(英語)  
甲南大 (マネジメント創造-マネジメント)：センタ後期、  
併用型後期廃止  
(マネジメント創造-特別留学)：センタ前期、併用  
型前期廃止  
(理工-機能分子化学)：前期2教科判定 新規実施

### ⑦ 中国・四国地区

吉備国際大 (外国語、アニメーション文化)：センタ前・中・  
後期 新規実施  
倉敷芸術科学大 (全学部)：中期 新規実施  
広島国際大 (全学部)：センタ前期BC方式 新規実施  
安田女子大 (看護-看護)：センタ前・後期 新規実施  
松山大 (薬)：センタスカラ入試廃止

### ⑧ 九州地区

久留米大 (法)：学科別募集→学部一括募集  
福岡大 (全学部(人文は教育・臨床・フランス語のみ、医は看  
護のみ)：センタⅡ期 新規実施  
(人文-歴史)：後期 新規実施  
(工)：センタ4科目型廃止  
熊本学園大 (社会福祉-子ども家庭福祉)：センタ後期 新  
規実施  
(商)：センタープラス方式 新規実施  
立命館アジア太平洋大 (全学部)：センタベスト2科目型廃止



ここまで、来春入試の変更点を中心にお伝えしてきた。本誌12月号では模試の動向を踏まえ来春入試の詳細な志望動向をご報告したい。